

なんケア通信

第45回南部圏域の地域包括ケアを考える会(なんケアの会)を開催しました

開催日時：令和6年12月6日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」 2階 地域文化ホール

参加者：31名(地域包括支援センター3名、介護事業所関係者14名、
医療機関関係者13名、その他3名福祉用具専門相談員、居宅)

演題

1. 訪問看護ステーションにおける特定行為看護師の活動について
御野場訪問看護ステーション管理者 特定行為看護師 伊藤 久美

2. 認知症看護認定看護師について
御野場病院 認知症看護認定看護師 出雲 裕子

御野場訪問看護ステーションには、医師の指示をもとにした手順書に従って「特定行為」に指定されている一定の診療補助が行える「特定行為看護師」がおります。訪問看護時に胃瘻のボタン交換を行ったり、褥瘡の壊死組織の除去などを行うことができます。特定行為看護師により、医師側の負担が軽減され、患者側は信頼関係のある看護師が処置を行うことで不安などを気軽に聞けることができるようになります。

御野場病院には、認知症の看護について専門的な知識と技術を有した認知症看護認定看護師がおります。県内外での認知症ケアの実施状況やケアについて、院内へ情報提供したり、見当識や安全・安心への支援を行っております。講演当日は、認知症マフ(イギリスなどで利用されている感覚療法ツール)の紹介もあり、実物に触れることで「快」の刺激を体験することができました。

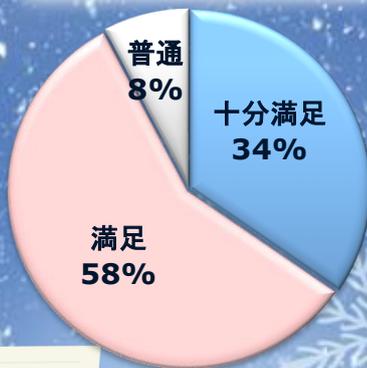
御野場病院スタッフ
手作りの認知症マフ



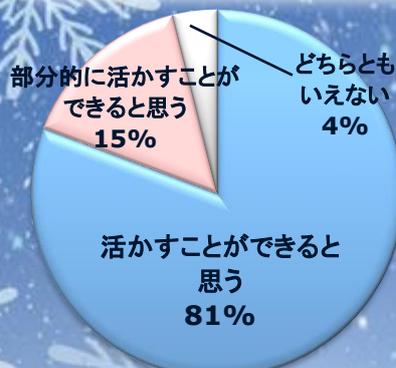
アンケート結果

回収率：83.8%(アンケート配布：31名、回収26名)

1. なんケアの会に参加して
いかがでしたか？



2. 今後、地域での活動に
活かすことができそうですか？



会場の様子



講師の伊藤氏、出雲氏



皆様からの ご意見・ご感想

「聴く力」を大事にするステーションと今後連携したいと思いました。
認知症看護認定看護師と地域で連携していける場面が今後できればと感じました。
特定行為についてどんな連携ができるかイメージしていきたいと思います。

(地域包括支援センター)

認知症の方の「快」といった心地よい刺激を得てもらうために、認知症マフというものの存在を初めて知りました。
一つの知識として覚えておき、今後の営業活動に活かしていきたいと思えます。

(その他)

認定看護師の必要性がとても良く分かりました。老健施設で働いていますが、常時Drがいることで安心しておりますが、やはり胃カテやストーマなどの利用者様もいることで、日々良いケアを心がけてはいます。同時に技術も勉強していかなくてははいけないと思えました。

(医療関係関係者)



次回開催の
お知らせ

開催日時：令和7年2月7日(金) 18:00~19:15
会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」